

陸上交通

1. 五街道 [図表P. 184]

☆江戸1 日本橋 を起点。道中奉行が管理。約4 kmごとに一里塚を築く。

* 東海道…江戸と京都・大坂を結ぶ最重要街道。53 (または57) の宿駅(宿場)がある。

* 2 中山道…江戸を出て草津で東海道と合流する。67宿が置かれた (最も多い)。

* 3 甲州道中…下諏訪で中山道と合流する。

* 日光道中…宇都宮までは奥州道中と重複。日光東照宮参詣用に整備された。

* 奥州道中…宇都宮で日光道中と分かれたのち、白河に至る。

※五街道以外の幹線道路は4 脇街道 (脇往還)とよばれ、商業用通行路として重要であった。
信濃-越後間の北国街道、大坂-下関の中国路(山陽道)、伊勢神宮参り用の伊勢路などがあつた。

2. 街道施設

① 関所…治安維持を目的に五街道・脇街道に50カ所余り設置された。「入鉄砲に出女」を警戒し、通行の際は村役人などが発行する手形の提示を必要とした。主要な関所は以下の通り。[図表P. 184①]

☆東海道-5 箱根・新居 ☆中山道-6 碓氷・福島(木曾福島)

☆甲州道中-7 小仏 ☆日光道中・奥州道中-8 栗橋

※軍事上の理由で架橋が禁止された川も多く、人夫・舟による渡しが行われた。大井川、天竜川など。

② 宿駅(宿場)…各街道に2～3里ごとに置かれた。次のような施設を備える。

* 9 問屋場…人馬の手配や公用の書状の継ぎ送りを担当する。

※人馬の供出は宿駅の農民の義務であり、これを一般に10 伝馬 役とよんだ。なおかつ人馬が不足する場合にはあらかじめ指定された農村から不足分の人馬を徴発した。このような農村は

11 助郷 とよばれ、このつとめを11 助郷 役とよんだ。[P. 206④]

* 12 本陣…大名、公家、幕府役人の宿泊所。これを補うのが13 脇本陣。

* 14 旅籠(旅籠屋)…食事付きの一般庶民用宿泊所。

* 15 木賃(木賃宿)…自炊を旨とする一般庶民用宿泊所。

◇ 「入鉄砲に出女」とは、特に関所が注意を払った事項について簡潔に表現したものです。「入鉄砲」は文字通り江戸に流入する武器のことです。

また、江戸には各藩の屋敷が置かれました。参勤交代の制度によって、大名は一年おきに江戸と領国を往来するのですが、大名の妻子は常に江戸で生活していました。人質の意味合いがあつたようです。ということから「出女」とは「わかりますよね?」が江戸を逃げ出して領国へ帰ることを意味し、関所においては男性よりも女性の方がより厳しく吟味(取り調べ)されたようです。

◇ 宿場には参勤交代時などには大名をはじめとする多くの武士が一斉に宿泊することがありました。ほかにも公用の幕府役人などの利用もありました。一般の商人や僧、旅人などの利用と違い、大人数での宿泊は調整が必要です。そのような宿泊が円滑に行われるようとりまとめ、人や馬の手配も行ったのが問屋場という施設です(公文書を確認につきの宿場へ送るという作業もしました(「継飛脚」のしくみ))。

大名や公家、幕府役人が泊まる本陣は、便宜上「高級旅館」に例えられますが、その宿場の有力者(問屋場のトップ)の私邸が提供されるのが一般的であつたようです。したがって、宿泊代をとるというよりも、謝礼というほうが適切で、宿泊者の財政状況によっては必ずしも十分な金額が払われないこともあつたようです。

◇ 日本史用語集で「旅籠[屋]」を調べると、食事を提供する宿を旅籠、食事を提供しない素泊まりの宿を木賃[宿]とよぶ、とあります。木賃では食材を持ち込んで料理してもらったり、あるいは自分で調理をしたようです。このとき調理をするための燃料代(薪代)を指す言葉として「木賃」が使われました。なお、「旅籠」は「旅先で馬の飼料をいれる籠」が転じて「食事」を意味する言葉だといわれます。